

6つの線でカタカナ・漢字を支援する試み
-地域実践におけるアルファベット法とTPR法の比較から-

高橋志野（愛媛大学）
向井留実子（愛媛大学）
伊藤江美（拓殖大学）
takahashi.shino.mm@chime-u.ac.jp

1 本出展の目的

「K-code」を用いた指導方法とその実践を紹介し、文字学習についての問題意識を持っている方と指導・支援方法について意見交換をする

2 K-codeとは

エジプト人研究者タハ・シヌーシが開発（Taha2020）漢字の点画の形状を類型化して、最小限の6種類にしアルファベットでコード化することによって、漢字を学びやすくした指導法

6つの線に形状の似たアルファベットをあてはめ、3つの追加オプションによって、様々な線の形状や書き方を説明

特徴

学習者にとって

線のタイプを、すでに知っているアルファベットでコード化するので、抵抗感が軽減できる

複雑な形状でも、6種類の線に還元できるので、容易に形状を捉えることができるようになる

読みやすい字が書けるようになる

教師にとって

1つのコードで、線の始点や方向、終点の形状（とめ、はらい）を説明することができる

書き方を説明するとき共有言語ができるので、日本語を介さずに説明ができる

学習者同士でも教え合えるようになる

線	一	丨	ノ	㇏	㇚	し
コード	H	I	Z	N	V	L
長短	h l z n v l （小文字で）					
はね	w					
一画	該当箇所に下線を引く					
例	レ → IV 日 → IH HH					

地域に即した方法にするための条件

実践者からの意見聴取

アルファベットを用いない国からの人が多いため使いにくい

線をアルファベットと結びつけなくても、字体は教えられるのでは

教師がコードを覚える手間がかかる

すでに文字学習した外国人からの意見

なぜ日本語なのに、アルファベットを使うのか

地域の日本語指導現場の特徴

指導をボランティアが行う場合が多い

学習者も指導者も継続的な参加ができない場合が多い

文字学習をしていない学習者が多い

外国ルーツの子どもも参加する場合もある

教具が揃わない環境の場合もある

① アルファベットを使わない

② その回限りで完結する

③ 文字が読めない人に使える

④ その後の学習にもつながる

⑤ 外国ルーツの子どもにも使える

⑥ できるだけ教具（PCなど）を使わない

⑦ 指導に慣れていないボランティアでも使える

4 アルファベット法からTPR法の開発へ

現在、実践しながら開発中（実践①②→ 実践③④⑤）

目標：60分～90分でカタカナの書き方がわかり、名前（+住所の一部）が書けるようになる

線	一	丨	ノ	㇏	㇚	し
コード	よこ	たて	ひだり	みぎ	チェック	エル
長短	短い+コード					
はね	はねる					
一画	該当のコードを続けて速く言う					
例	レ → たてチェック 日 → たて よこたて よこ よこ					

特徴

1) 日常（学校で）使っている言葉をコードに ①④⑦

指導に慣れない人でも日本人なら馴染みやすい

日本語なので、学習後も使える言葉になる

2) TPRでコードを覚える ⑤⑦

コードの繰り返し練習が運動の感覚で楽しくできる

コードの音が動作としっかり結びつき、覚えやすくなる

動作は、書く時の体感と結びつけやすい

3) 学ぶことを最小限に抑える ②

①カタカナの読みは示さず、字体を覚えることから始める ③

読めなくても字体の構造に集中できる

②カタカナすべてを書くのではなく名前を練習する ④

自分の名前が書けることで文字学習の動機づけに

③ 名前のカタカナの読み方を覚える ④

自分の名前なので、覚えやすく、読み学習の動機づけに

4) 特別な教具を使わず、配布物も最小限に ⑥⑦

最小限の紙資料で複雑にしない

実践①

対象：小学生（2年生と5年生）とその保護者 3人

実践②

対象：高校生 1人

実践③ ④ ⑤

対象：大学の留学生（日本語学習経験がなく、学習する時間も確保しにくい、地域の外国人に近い学生） ③2人 ④1人 ⑤8人

名前のカタカナ練習専用のシートを使用

名前を入力したら自動的にマス目に文字が入り、文字の上に読み方のローマ字が表示される

5 TPR法の課題と可能性

今後も、より地域に即した方法に改善していく予定

しかし

・実践の機会が少なく、さまざまな対象を得にくい

・実践後どの程度、K-codeを使用した効果があるか未調査のため、不明

・地域の支援者への説明は、口頭や文章では伝わりにくいため、実践の見学が最も望ましいが、その機会を作るのが難しい

地域の日本語支援者6人へのアンケート結果

（2つの方法を紹介後に実施）

▶ K-codeは、カタカナ・漢字学習を容易にする（6人）

▶ アルファベット法よりTPR法が実践しやすいと思う（6人）

▶ K-codeはどんな人に一番向いているか

外国ルーツの子ども（3人）

初級学習者（2人）

大人（1人）

文字を見たまま覚えるのに抵抗がある人（1人）

意見交換

みなさんの現場でこの方法が使えるそうですか？

どんな点を改善したら、使えると思いますか？

参考文献

1) Taha, Sinousy Emman(2020)「非漢字系日本語学習者のための字形学習法－漢字導入に焦点を当てた視覚形態的分析と組み合わせコード化－」JSL漢字学習研究会誌12, pp.77-85

2) 中村かおり・伊藤江美（2022）「線の識別力を高める漢字字体学習法「Kコード」の効果と課題－学習者および教師への意識調査から－」拓殖大学日本語教育研究7, pp.55-76

3) 向井留実子・新矢麻紀子・高橋志野（2016）「国際結婚移住女性の書字学習支援に関する一考察－ソーシャル・サポートという視点から－」JOURNAL CAJLE, VOL.17, pp.44-62

6つの線でカタカナ・漢字をマスターしよう： <https://www.youtube.com/watch?v=VfSgi463hDY>

K-codeのHP： <https://k-code.net>

本出展は、JSPS23K00613の助成を受けています。